

## ⑫ 公開特許公報(A) 平3-259607

⑤ Int. Cl.<sup>5</sup>

H 03 G 9/00

識別記号

A

庁内整理番号

8326-5J

⑬ 公開 平成3年(1991)11月19日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全3頁)

⑭ 発明の名称 ロードネスコントロール用トランス

⑯ 特 願 平1-51985

⑰ 出 願 平1(1989)3月6日

⑱ 発 明 者 藤 田 貞 夫 埼玉県川越市下新河岸2-18

⑲ 出 願 人 藤 田 貞 夫 埼玉県川越市下新河岸2-18

## 明 細 書

1. 考案の名称 ロードネスコントロール用トランス

2. 特許登録請求の範囲

ロードネスコントロール回路にて、音量調整器を変化すると其の変化に対応して、自動的に低音又は高音の増強度を変化する事をトランス、又は、チョークコイルを使用して行う事。

3. 考案の詳細な説明

此の考案は可変抵抗器により、音量を変化すると音量が最大の時低音中音高音の増強度が一定となり、音量を下げて行くに従い中音部より低音高音部の増強度が強くなり、其の割合が音量が下がる程大きくなる事を、トランス又はチョークコイルのリアクタンスが、周波数が増加する事により変わる事を、利用して行うものである。従来のロードネスコントロールは、音量調整器と低音及び高音の調整器が別々になっているものが多く、次の様な欠点が多い。

- (イ) RC型を多く使用しており低音高音の増強度が小さい。
- (ロ) 使用者が自分の好みの曲線に補正する事ができない。
- (ハ) 人間の目の特性を表す、フレッチャマンソンの曲線に近似的でない。

(ニ) 回路が複雑になり設定がむづかしい。

(ホ) 特に低音の増強度は重用であり、一般家庭の6畳か8畳の小さい家で聞く時、大音量を出すと隣近所に騒音防音となるので人間が会話する程度の音量で聞く事が多いので低音の不足した、物足りない音質となる。

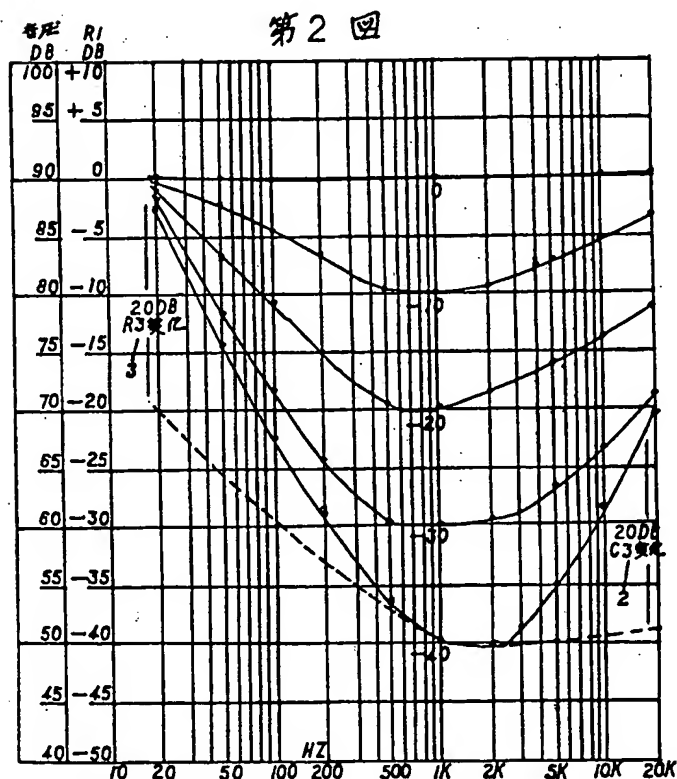
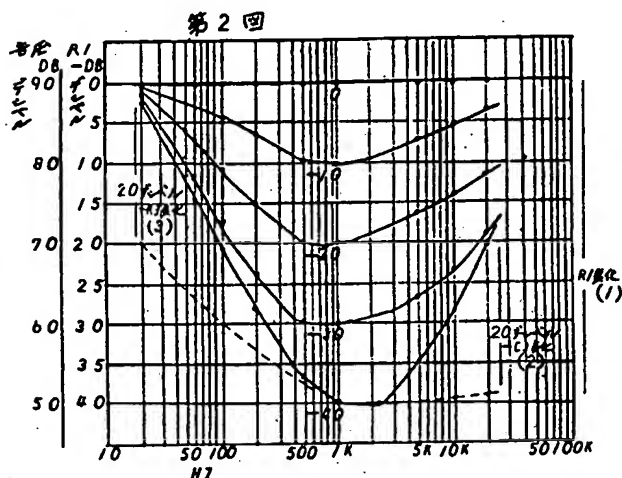
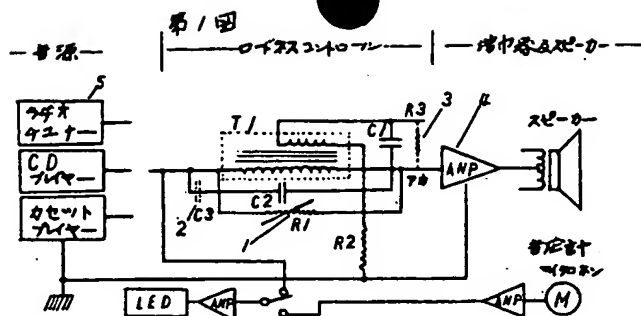
此の考案は以上の欠点が少なく、フレッチャマンソンの曲線と、近似的な動作をするものである。第一図の(2)(3)を使用しない時の(1)の変化による特性は第二図の通りであり、フレッチャマンソンの特性と近似的である。

第一図の設定時の調整法は(1)の音量調整器を-30デシベルの位置にあく。此の時(4)は利得最大か適宜の位置におき、(5)の利得を加減して音圧計の読み60デシベル、又は人間の目で通常の会話程度の音量とする、次に各音帯の利得を一致させると(1)を最大にした時の音圧は90デシベルとなり、スピーカの音圧は、低音、中音、高音、の特性が平坦となる其の後は(1)の変化だけで低音中音高音の音圧特性が、第二図のごとく変化して理想的な動作をするものである。

4. 図面の簡単な説明

第一図はロードネスコントロール部分の配線図及び原理的な部分動作説明図である。

第二図は音量調整器の変化による、音圧レベルの特性変化曲線であり、フレッチャマンソンの特性と近似的である。



補正対象頁

第

1. 事件の表示

平成 1 年 特許願

第 51985 号

2. 発明の名称

3. 補正をする者

事件との関係

特許出願人 藤田 貞夫

住所(居所)

埼玉県川口市下新河岸2018

氏名(名称)

藤田 貞夫 (印)

4. 代理人

住所(居所)

氏名(名称)

印

5. 補正命令の日付(発送日)

6. 補正の対象

1. 明細書発明の名称 2. 明細書特許請求の範囲

3. 明細書発明の詳細な説明

4. 図面 第2図

7. 補正の内容

1. 明細書1頁1行 1. 発明の名称を

1. 発明の名称

2. 明細書1頁2行 2. 特許請求の範囲を

2. 特許請求の範囲

3. 明細書1頁6行 3. 発明の詳細な説明を

3. 発明の詳細な説明

4. 第2図を1枚の用紙に説明し、別紙第2図

補正対象頁

第

1. 事件の表示

平成 1 年 特許願

第 51985 号

2. 発明の名称

ロケータコントロール用トランス

3. 補正をする者

事件との関係

特許出願人 藤田 貞夫

住所(居所)

埼玉県川口市下新河岸2018

氏名(名称)

藤田 貞夫 (印)

4. 代理人

住所(居所)

氏名(名称)

印

5. 補正命令の日付(発送日)

6. 補正の対象

1. 明細書発明の名称、明細書発明の名称、

明細書2. 特許請求の範囲1行目

明細書3. 発明の詳細な説明1行目

明細書2頁4. 図面の簡単な説明1行目

第1図1行目 発明の名称

7. 補正の内容

1. 特許請求の範囲のロケータコントロール用トランスを、

ロケータコントロール用トランス

2. 明細書1頁1行 1. 発明の名称を

ロケータコントロール用トランス

3. 明細書2頁4. 図面の簡単な説明1行目 1. 発明の名称を

ロケータコントロール用トランス

4. 明細書2頁4. 図面の簡単な説明1行目 2. 特許請求の範囲を

ロケータコントロール用トランス

5. 第1図1行目 1. 発明の名称を

ロケータコントロール用トランス

手続補正書

平成 3 年 6 月 27 日

特許庁長官

殿

平成 3 年 6 月 27 日

1. 事件の表示 平成 1 年 特許第 51985 号
2. 発明の名称 ロードネスコントロール用トランス
3. 補正をする者

事件との関係 特許出願人 藤田 貞夫

住所(居所) 埼玉県川越市下新河岸2の18

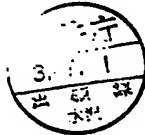
氏名(名称)

藤田 貞夫

4. 補正命令の日付 平成 2 年 8 月 28 日
5. 補正により増加する発明の数
6. 補正の対称 平成2年6月1日、提出 手続補正書の  
補正の対称の欄及び補正の内容の欄

7. 補正の内容

1. (イ)を削除する。
2. 特許請求の範囲を「ラウドネスコントロール回路にて、  
音量調整器を変化すると其の変化に対応して、自動的に低音又は  
高音の増強度を変化する事をトランス、又はチョークコイル  
を使用して行う事」と補正する。
3. 第1図を添付する



手続補正書

平成 2 年 6 月 1 日

特許庁長官

殿

1. 事件の表示 平成 1 年 特許第 51985 号
2. 発明の名称 ロードネスコントロール用トランス
3. 補正をする者

事件との関係 特許出願人 藤田 貞夫

住所(居所) 埼玉県川越市下新河岸2の18

氏名(名称)

藤田 貞夫

4. 補正命令の日付
5. 補正により増加する発明の数
6. 補正の対称 明細書の「発明の名称」「特許請求の範囲」  
「図面の簡単な説明」及び「図面」

第1図

